



携帯サイトQRコード

いしふ



第87号

平成23年1月15日発行



新年明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては、健やかな新春を迎えられたこととお喜び申し上げます。

近年のアジア諸国の好景気に比べ、日本は低成長にあえいでいます。我々の業界におきましても、診療報酬の引き下げ等により医療をとりまく情勢は益々厳しくなっております。当院といたしましてもこの難局を乗り切るため、今まで以上に職員が力を合わせ、患者様のニーズにお応えし、質の高い医療サービスをご提供できるよう努力してまいりますと存じます。また、これからも地域住民の皆様にあいさつ、信頼され、より多くの貢献が出来ますよう職員一同日々取り組んで参ります。本年もどうぞよろしくお願い致します。

今年一年が皆様にとりましてよい年でありますようお願い申し上げます。

経営統括部長 実平 孝行

Let's Cooking

ショウガカップケーキ

大好きなスイーツもショウガを入れれば、
栄養価の高いおやつに变身。
ケーキを割ると、ほんのり漂うショウガの
さわやかな香りが食欲をそそります。



- ① ショウガはすりおろしておく。はちみつにつけたショウガは千切りにする。
- ② 薄力粉とベーキングパウダーを合わせてふるっておく。
- ③ バターは耐熱容器に入れ、湯せんまたは電子レンジで戻す。
- ④ ボウルに室温に置いた卵と三温糖を入れなめらかになるまで泡立て、②の粉をふり入れゴムベラで混ぜる。
- ⑤ ④に溶かしバターとすりおろしたショウガを加えてさっくりと混ぜ合わせる。
- ⑥ マドレーヌ型に分けて入れ、生地の上にショウガのはちみつ漬けを飾りにのせる。
- ⑦ あらかじめ180℃に熱しておいたオーブンで約20分焼いて完成。

材料(マドレーヌ型9cm/6.7個分)

・薄力粉	100g
・ベーキングパウダー	小さじ1/2
・無塩バター(マーガリンでも可)	90g
・三温糖	60g
・卵	2個
・ショウガのすりおろし	大さじ1
・ショウガのはちみつ漬け(なくても可)	5.6枚

ショウガの効能

- ★全身を温め、胃液胆汁の分泌を促進
- ★胃の冷えによる嘔吐をとめ、消化を良くする
- ★発汗作用は風邪に効果
- ★痰を切り、咳を鎮める
- ★殺菌作用 ★消炎効果
- ★肩こり、腰痛 ★血圧降下



1日5gを目安にしてください。
食べ過ぎは禁物です。

インフルエンザ脳症



小児科医師
林 晶子

インフルエンザに伴って発症する急性脳症は、インフルエンザ脳症とよばれます。インフルエンザ脳症が疑われる初期の神経症状には、意識障害、けいれん、異常言動・行動があります。この意識障害では、うとうとして眠りがちの状態や錯覚、妄想などが12~24時間以上持続することが多くみられます。しかし、中には、一時的な意識障害の3~5日後に、けいれんや再び意識障害が出現する二相性の経過をとる場合があります。従って、経過観察として一旦帰宅した場合でも、このような症状が現れた場合は、再診してください。「意識障害」はインフルエンザ脳症の神経症状の中で最も重要な位置を占めます。実際、医療従事者によって使われている次のような意識レベルの判定法があります(一部簡潔に変更、()は乳幼児対象)。

III 刺激をしても目覚めない状態

- 300 つねるなどの痛み刺激にまったく反応しない
- 200 痛み刺激で少し手足を動かしたり、顔をしかめる
- 100 痛み刺激に対し、払いのけるような動作をする

II 刺激すると目覚める状態

- 30 痛み刺激を加えつつ呼びかけを繰り返すと、かろうじて眼を開ける
- 20 大きな声または体をゆさぶることにより眼を開ける(呼びかけると眼を開けて目を向ける)
- 10 普通の呼びかけですぐに眼を開ける(飲み物を見せると飲もうとする)

I 刺激しないでも目覚めている状態

- 3 自分の名前、生年月日が言えない(母親と視線が合わない)
- 2 時間や場所、周りの人間関係がわからない(あやしても笑わないが視線は合う)
- 1 意識がはっきりしているとはいえない(あやすと笑うが、不十分で、声を出して笑わない)

インフルエンザにかかった場合、年長児でも「けいれん」をおこしやすくなります。熱性けいれんは、単純型・複雑型に分類されます。単純型とは、15分以内の持続するけいれん、繰り返さないけいれん、左右対称のけいれんを指します。複雑型とは、持続時間の長いけいれん、繰り返すけいれん、左右非対称のけいれんを指します。

「異常言動・行動」には次のようなものがあげられます。

- 1) 両親がわからない、いない人がいると言う。
- 2) 自分の手をかむなど、食べ物と食べ物でないものとを区別できない。
- 3) アニメのキャラクター・象・ライオンなどが見えるなど、幻視・幻覚的訴えをする。
- 4) 意味不明な言葉を発する、ろれつがまわらない。
- 5) おびえ、恐怖、恐怖感の訴え・表情
- 6) 急に怒り出す、泣き出す、大声で歌いだす。(インフルエンザ脳症患者家族の会「小さないのち」より)



従って、発熱+何らかの神経症状がある、けいれん(単純型)+異常言動・行動がある、けいれん(複雑型)を認めた場合などは受診することが大切です。インフルエンザの初期には検査がしばしば陰性を示すことがあるため、周囲の流行状況や急な高熱などの症状をもとに診断されることもあります。自宅療養では、上記のような神経症状に注目し、注意深く観察することが必要となります。